

2018 年度 神戸大学全学共通教育 外国語科目

神戸大学 LMS BEEF 活用事例集

—ICT 活用によるアクティブラーニングの実現をめざして—



※本事例集は[ここからダウンロード](#)可能です。

神戸大学 大学教育推進機構 国際コミュニケーションセンター

編集：システム研究部門

目次

ごあいさつ

..... 横川 博一 3

はじめに

..... 廣田 大地 4

授業概要の提示と課題の提出



..... 柏木 治美 7

神戸 BEEF を用いた中国語長文の和訳課題の提出



..... 高橋 康徳 9

ドイツ語授業における BEEF の活用例



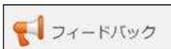
..... 福岡 麻子 11

「フォーラム」機能を用いた課題の提出



..... 木原 恵美子 14

振り返りコメントの回収と返答の公開



..... 廣田 大地 18

私の BEEF の活用方法



..... 加藤 雅之 21

神戸 BEEF を活用した教室外での授業支援



..... 保田 幸子 26

英語授業における BEEF 内での活動例



..... 大和 知史 31

台風などによる休講分の BEEF 補講



..... 石川 慎一郎 34

ごあいさつ

ICT を活用したアクティブラーニング学修環境の整備にむけて

神戸大学では、機能強化戦略に掲げている「世界で活躍できる人材の育成」を達成するため、ICT を活用した教育の多様化を促進する学修環境への転換・整備を行うことが急務であり、教育学修環境の国際化を進める必要があるとの認識に立って、ICT を活用したアクティブラーニング学修環境整備を進めています。

具体的には、平成 31 年度入学の学生から「パソコン必携」化を学年進行で順次進め、ICT を活用した能動的学修、問題解決学修、参加型授業という多様な形態の教育を行うことができるよう、国際教養教育院が提供する全学共通教育授業科目が開講される鶴甲第一キャンパスにある既存の CALL 教室を、グループ協働学修を主体とした「アクティブラーニング教室」およびセンターモニタを活用した「インタラクティブ・ラーニング教室」（いずれも仮称）に転換・整備します。また、平成 31 年度入学者から学生のパソコン必携化を導入するための整備として、平成 30 年度中に、神戸大学 LMS BEEF サーバーの増強、国際教養教育院のアクセスポイント増設、ノートパソコン保管庫の設置などパソコンの利用環境を整備しているところです。

ICT と外国語教育のかかわりの歴史は長く、親和性も高いことはご承知の通りです。情報通信にかかわる科学技術はつねに進歩しており、外国語教育の世界でも役立ちそうなものがたくさんあり、私たちの日常に次第に浸透してきています。また、グローバル化、つまり多言語多文化共生社会への移行にとって、外国語の重要性はますます高まりつつあります。ネット環境のユビキタス化が外国語学習に与えるインパクトは決して小さくありません。最終的には、外国語の学習とは、国境や文化を超えて、人と人がことばを通じてつながり、理解を深めていくことであり、相互が「学びあう」ことであると言えます。

このような状況に鑑み、神戸大学・大学教育推進機構・国際コミュニケーションセンターでは、神戸大学 LMS BEEF という学修支援システムのさまざまな機能を使った外国語の授業展開事例集を作成いたしました。パソコン必携とポスト CALL 教室の機能を最大限に活かして、先生方が新しい時代の外国語教育を展開するその手がかりとなれば幸甚に存じます。ぜひご活用くださいませ。

外国語教育部門長・国際コミュニケーションセンター長

横川 博一

はじめに ー神戸大学 LMS BEEF についてー

廣田 大地 (国際コミュニケーションセンター・准教授、システム研究部門長)

■神戸 BEEF ならびに Moodle について

2016 年度より神戸大学では、全学を対象とした LMS(学習管理システム: Learning Management System) として、「神戸大学 LMS BEEF」(以降、「神戸 BEEF」あるいは「BEEF」と略します) が使用できるようになりました (<https://beef.center.kobe-u.ac.jp/>)。神戸 BEEF は、世界的にも広く普及している Moodle (ムードル) という無料ソフトに依拠し、神戸大学での独自のカスタマイズを施したものです。

基本的な操作方法に関しては、神戸 BEEF も一般的な Moodle とほとんど変わりはないので、書店に並んでいる Moodle 関連本や、インターネット上の解説などを見ながら、少しずつ使い方を把握していくことも可能です。また、神戸大学の情報基盤センターにより、神戸 BEEF の詳細な教員向けマニュアルが作成されており、毎年、初心者・中級者向けの利用説明会も開催されています。

本事例集は、外国語教育における神戸 BEEF の活用にその内容を特化し、実際に神戸大学の外国語教育を担当している国際コミュニケーションセンター専任教員 9 名による、具体的な神戸 BEEF の活用事例を紹介しています。その中では、ただ単に教師から学習者への一方通行の情報発信の道具としてではなく、教師と学習者、あるいは学習者間での双方向的な情報交換を可能にする、いわゆるアクティブラーニングのための場として、神戸 BEEF を活用する方法についても多くの言及を行なっています。

2019 年度から神戸大学において学生のパソコンの必携化が始まる中、また、授業におけるアクティブラーニングの充実化が求められている中、各教員にとって過度な負担にならない範囲で、どのように時代のニーズに応えていくことができるのか。その解決法の一つの糸口として、本事例集を役立てていただければ幸いです。

■参考文献、関連 web ページについて

上にも記したように、Moodle については既にさまざまなマニュアルが存在していますが、ここでは、その中でも主に初心者を対象とした、比較的分かりやすいものを紹介します。初心者の方には、まずは本事例集を一読のうえ、さらなるステップとして活用していただけないのではないかと存じます。

・神戸大学 LMS BEEF 利用ガイド・マニュアル (教員の方へ)

(神戸 BEEF に全学共通アカウントでログインすると、トップページの一番上にリンクが表示されています。全般的な利用開始ガイドから、コンテンツごとの作成ガイドまで、詳細なマニュアルを PDF で読むことができます。)

・中西大輔・大澤真也編著『Moodle 事始めマニュアル』広島修道大学人文学部、2013 年

(<https://ver2.jp/doc/1800/>にて無料公開。PDF 版のダウンロードも可。第 4 章「学生に教材を提示する」、第 5 章「調査 (アンケート) を行う」、第 6 章「コース上で議論させる」、第 7 章「学生にレポートを提出させる」、第 10 章「実践報告集」が特に参考になります。)

・大澤真也・中西大輔編『e ラーニングは教育を変えるか Moodle を中心とした LMS の導入から評価ま

で』海文堂、2015 年

(59～133 ページの第 4 章「LMS 実践事例集」が特に参考になります。)

■神戸 BEEF で利用可能なコンテンツ

神戸 BEEF で利用できるコンテンツには、以下の「活動」12 種類と「リソース」6 種とがあります。この 2 つのカテゴリの主な違いは、「活動」が学習者のリアクションを求める双方向的なものであるのに対して、「リソース」は教師側から学習者側に情報を伝達する一方通行のものであるという点にあります。

活動		
 Wiki	 フォーラム	 小テスト
 チャット	 レッスン	 投票
 データベース	 ワークショップ	 動画コンテンツ (使用不可・検証中)
 フィードバック	 課題	 用語集

リソース		
 URL	 フォルダ	 ページ
 ファイル	 ブック	 ラベル

ただし、本事例集では、神戸 BEEF の基本的な利用法の紹介を目的としているため、上記のコンテンツのすべてを扱っているわけではありません。具体的には、上記のコンテンツ一覧表において、背景が灰色になっているものについては言及していません。初めての方は、まずは「リソース」の「ファイル」や「ページ」を使ってみると良いでしょう。

目次や各事例紹介の冒頭には、その事例の中で用いているコンテンツがすぐに分かるように、対応する上記の画像を表示してあります。「このコンテンツを使った具体例を見たい」というときには、目次ページで対応するコンテンツ画像を探してみてください。

■コンテンツ構成例

神戸 BEEF のデフォルト設定では、各授業ページごとに 1 から 10 までの「トピック」欄が用意されています。基本的には、1つの「トピック」を 1回の授業内容に対応させるのが使い勝手が良いでしょう。また、授業の進め方・評価基準や、期末試験なども 1つの「トピック」としてまとめておくこともお勧めします。もちろん、「トピック」は足りなくなれば追加することも可能です。

各授業ページの構成例として、右に、2018年に廣田が担当した「外国語セミナー A」の授業ページ冒頭を挙げておきます。

デフォルト設定では、各トピックの名称は「トピック 1」「トピック 2」のようになっていますが、右図のように、各授業の日にちとテーマに変更しておく、授業全体の流れと、各回の内容とが視覚的にも分かりやすくなるのでお勧めです。

ここでは、本書の前ページで紹介したコンテンツの内、「ページ」「フィードバック」「URL」「課題」を使用しており、また神戸 BEEF で用意されているコンテンツ以外にも、PDF と動画ファイルをアップロードしてあります。

右図において、薄字で表示されている 2つの PDF ファイル（「Reussir...」と「ルーブル美術館」）は、学生サイドでは非表示になっています。授業中、あるいは授業外学習の課題の模範解答をアップロードしておき、提出締切の日時になってから、表示に切り替えるといった使い方ができます。

各ページの冒頭には、デフォルトで「アナウンスメント」というフォーラムが用意されており、これは履修学生に一斉連絡をするときにも活用できます。不必要であれば、削除することはできませんが、非表示にしておくことも可能です。

外国語セミナー A (フランス語)

Home ▶ [第3クォーター][U546] 外国語セミナー A (フランス語)

 [授業の進め方・成績評価について](#)

 [アナウンスメント](#)

10/3 【1つ目のプレゼンテーション 準備その1】

テーマ：自分の出身地、または好きな街について紹介する

資料：パワーポイントでスライド4枚程度（+初めと終わりの挨拶スライド）

言語：フランス語のみ。英語・日本語の使用は禁止。

 [昨年の履修生による例 1](#)

 [昨年の履修生による例 2](#)

 [フランス語でのプレゼン：初めと終わりの挨拶](#)

 [Reussir le DELF A2 production orale p.79 解答](#)

 [リンク：フランス語でのプレゼン表現集](#)

 [ルーブル美術館（模範解答）](#)

10/10 【1つ目のプレゼンテーション 準備その2】

翌週の日曜（10/21）までに、パワーポイントとフランス語原稿を提出し、事前チェックを受けること。

 [Ma ville natale](#)

 [ma ville natale Tanguy 01](#)

 [ma ville natale Tanguy 02](#)

 [10月21日（日）までに提出：自分の出身地（または好きな街）について](#)

Wordファイルでフランス語の原稿、PowerPointでスライドを作成し（最大50MBまで）、10月21日（日）までに提出してください。

10/17 出張のため休講

それではいよいよ、次のページからは、各教員による神戸 BEEF の具体的な活用事例を紹介していきましょう。収録した 9名の教員による活用事例は、基本的な利用法のもの・汎用性の高いものから、やや高度なもの・特殊な用例のものへと並べてあります。それぞれのご関心に合わせてお読みください。

授業概要の提示と課題の提出

柏木 治美 (国際コミュニケーションセンター・教授)

利用コンテンツ	 ページ	 課題
授業科目	English Communication	

■はじめに

BEEF について、私の場合はごくごく基本的な使い方しかしていないため、活用方法というほどではないのですが、主に、**学期中のスケジュールや授業概要の説明、課題・小テスト・プレゼンテストに関する諸連絡**に使用しています。

■スケジュール、授業概要、課題やテストに関する掲示

授業概要と成績評価、その他の注意事項について BEEF 上に準備しておき、学期の初回に BEEF を使って説明を行います。また、授業スケジュールとして、小テストの内容や実施日、課題の内容や提出日を掲示しておきます。以前は、これらを紙媒体で配布していましたが、BEEF であれば、学生がプリントを失くすこともなく、欠席者への対応も可能になりました。また細かな修正が出てきた場合も BEEF 上で対応できる部分が多いため、最新の諸連絡を掲示することが可能になります。

授業振り返りアンケートで

は、学生は BEEF 上でスケジュールを確認することができ、自分なりに計画を立てることができるといったコメントが見られました。

スケジュールのほかに、授業中で使用する補足説明や解答の一例なども挙げています。学生側としては、復習に使い、授業中のスマートフォンや携帯で写真を撮るといった行為はなくなりました。

1 10月1日 (月3)

- オリエンテーション：授業概要と成績評価
 - 参考書籍・参考サイトについて
 - 出席テスト（出席課題含む）・プレゼンテストについて
 - 原稿等提出：Word等を入力し印刷して提出、手書きや印刷していない場合は、提出日厳守、欠席した次の日に提出は×。（【成績評価や授業における注意点】を参照）。
 - 注意：今後、情報基盤センター発行アカウントとパスワードは必須。
- プレゼンテスト(11月19日・26日)の課題：11月19日・26日の項目を読んで準備

 [授業概要と成績評価について](#)

2 10月15日

- 出席課題(1)→振り返りシート提出
- 主なパラグラフ構造の説明とプレゼンテストについて
- listening→shadowing練習
- 次回、出席テスト(1)実施

 [shadowing英文_education reform](#)

3 10月22日

- 出席テスト(1) (口頭)
- 課題実施→提出方法の説明→提出と答え合わせ

 [課題音声](#)

■ 「表示／非表示」機能の利用

授業で使用する補足説明や解答の一例を、あらかじめ BEEF 上のページやファイルとして挙げておき「非表示（学生側からは見えない）」にしておきます。授業で課題を実施してから「表示」にします。「表示／非表示」機能により、必要な場面で必要な情報を提示することができる点を利用しています。



■ 「課題」の機能

Word ファイルなどでワークシートを準備し、「課題」機能を使って、課題を提出することを、少し試しています。ただし、学生同士で課題ファイルをコピーするといった問題も考えられるため、課題内容や授業中での課題ファイルの提出などを考慮しながら進めています。



■ BEEF を利用しての感想

BEEF を使用することによって紙媒体での配布を行わなくてもよくなった点は、授業の運営上、便利になりました。しかし、BEEF では実現が難しいものや対面で実施した方がよい部分もあります。当たり前のことですが、やはり、各教員の授業のやり方に応じて、BEEF を使った方がよい部分は使い、対面や他の方法がよい場合はそちらを選択するなど、柔軟に対応して、自分にフィットしたやり方をつくっていくことが大切かと思えます。

神戸 BEEF を用いた中国語長文の和訳課題の提出

高橋 康德 (国際コミュニケーションセンター・講師)

利用コンテンツ	 課題
授業科目	中国語中級 C1・C2 (選択クラス)

■背景

この科目では、中国語長文の朗読練習および日本語への翻訳、映画などの視聴覚教材を用いた会話練習などを行っています。普段の授業では朗読練習と会話練習を行うだけで時間がほとんど埋まってしまうため、日本語訳の提出は BEEF の「課題」機能を利用しています。

■設定の編集

課題名・説明・開始日時・終了日時・遮断日時・アップロードファイルの数とサイズを設定します。この中では遮断日時が特に重要で、「締切に遅れることを許さない課題」には遮断日時を設定しておきます（一方、「締切に遅れても提出されたら受け取る課題」には遮断日時を設定しないほうが便利です）。



■課題提出の管理

学生ごとの課題の提出状況が確認できます。未提出の学生に対しては、授業中に提出することを促しています。

		評定のために提出済み 6分47秒遅く提出	評点	編集	2018年06月30日(金曜日) 00:06
		評定のために提出済み	評点	編集	2018年07月29日(日曜日) 13:18
		評定のために提出済み	評点	編集	2018年08月1日(水曜日) 01:11
		提出なし 課題は次の時間を超過しています: 6日 13 時間	評点	編集	-
		評定のために提出済み 次の日時まで延長が許可されました: 2018年08月5日(日曜日) 06:00	評点	編集	2018年08月4日(土曜日) 22:00
		評定のために提出済み	評点	編集	2018年07月26日(木曜日) 16:58
		評定のために提出済み	評点	編集	2018年07月29日(日曜日) 18:10
		評定のために提出済み	評点	編集	2018年07月29日(日曜日) 17:55

■課題ファイルの回収

課題の提出ファイルを添削する際には、提出確認画面の上にある「評定操作」が便利です。特に「すべての提出をダウンロードする」を選択して、ファイルをダウンロードすると、学生の名前が付いたフォルダーに提出ファイルが格納された状態でダウンロードできるため、ファイルの分類やコメントの作成などがスムーズに行えます。



■結論

BEEF を利用して課題提出を管理することにより、授業内では時間的に扱う余裕がない練習や課題をスムーズに行うことができるようになりました。課外での学習意識も高まるため、効率と効果のどちらの面でも有益です。

ドイツ語授業における BEEF の活用例

福岡 麻子 (国際コミュニケーションセンター・准教授)

利用コンテンツ	 課題	 ファイル
授業科目	 フォーラム	
授業科目	ドイツ語初級 B1・B2	

■はじめに

主に以下の4点に BEEF のメリットを感じ、授業で使っています。

- ①音声やビデオ等、紙以外のメディアのやりとりができる
- ②資料置き場として
- ③解答や意見の共有ツールとして
- ④指示を簡単なドイツ語で書くことにより、読む練習にもなる（同じ課題の場合は同じ文を目にするので、慣れる効果も）

以下、(1) から (5) にわたり、具体的な使用について述べます。

■ (1) 資料配布

ドイツ語圏の教科書出版社は、充実したウェブサイト（教科書と連動）をしばしば持っており、自分の授業でもよく参照します。PDF で公開されている語彙集などは質の良いものですが、人数分印刷して配布するのは困難なため（イラストが意味を持つ語彙集なので、白黒印刷も避けたい）、BEEF にリンクを貼っておき、授業中、または次回の授業までの課題として、語彙の学習に使っています。

Q1 Wortschatzkarten 語彙カード

Q1中に授業で配布 and/or BEEFにアップした語彙カードを一箇所にまとめます。

-  Begrüßung und Abschied さまざまなあいさつ
-  Berufe 職業
-  Familie 家族
-  Gegenstände (身の回りの) もの
-  Im Büro オフィスで
-  Freizeitsaktivitäten 余暇の過ごし方
-  趣味に関する語彙 追加 (ピンクの四角の中)

■ (2) 課題提出

発音や発話の仕方など、紙の課題ではカバーできないことを、ビデオや録音したものをアップロードしてもらい、評価対象にしています（期末課題の一部）。撮影や録音は、ほとんどの学生が自分のスマートフォンで行っていますが、こちらで撮影・録音することを希望する学生は、そのための時間を別途設けています。

これらの課題では、BEEF の「課題」機能（ファイル提出型）を使っています。

The screenshot shows the BEEF LMS interface for task submission. On the left, there are two task entries with submission status '評定のために提出済み' (Submitted for grading). The first entry is dated 2018年06月06日 (水曜日) 21:46. The second entry is dated 2018年06月09日 (土曜日) 18:12. On the right, a task titled 'Q1期末課題：自己紹介ビデオ' (Q1 Final Task: Self-introduction Video) is displayed. The instructions are in German: 'ドイツ語で自己紹介するビデオを撮り、BEEFにアップしてください。' (Record a video introducing yourself in German and upload it to BEEF). The instructions include: '締め切り：6月7日（木）' (Deadline: June 7th (Thu)), 'ファイル名：Q1_TE_Fukuoka Asako のように付してください（名前のところはご自身のお名前をFamilienname Vornameの順番で入れてください）' (File name: Attach like Q1_TE_Fukuoka Asako (Please enter your name in the order of Familienname Vorname)), 'カメラ目線・笑顔・大きな声で！' (Look at the camera, smile, and speak loudly!), and '期日を過ぎてアップロードがない場合は連絡します。' (We will contact you if no upload is received after the deadline). A file icon and the name 'Q1期末課題：自己紹介ビデオ' are shown at the bottom.

■ (3) インタラクショナルな作文課題

ドイツ語でメールを書く練習をさせたい場合、紙で行うことも可能ですが、BEEF の「課題」(オンラインテキスト型) 機能を用いています。教員からの返信を読むまでが課題ですが、メールはパソコンやスマホで読み書きすることも多く、実際の状況に即している（リアルな感覚で課題を行える）といった利点があります。教員側としては、用紙の回収・管理の手間が省けるのもメリットです。ただし、字数制限の設定などに注意する必要があるように思われます。

The screenshot shows a homework assignment titled 'Hausaufgabe (12. Juli)'. The instructions are in German: 'Bitte eine Antwort auf meine Mail (siehe PDF) schreiben :-)' (Please write an answer to my mail (see PDF)). The deadline is 'Deadline: 15. Juli 2018 (23 Uhr 55)'. There are two follow-up notes: '7月13日（金）10時 追記：課題を可視化させたつもりでしたが、見えないままになっていました。申し訳ありません。課題の存在を思い出してもらえるといいのですが。' (7/13 (Fri) 10:00 update: I thought I made the task visible, but it wasn't. I'm sorry. It would be nice if you could remember the task's existence.) and '7月15日（日）7時 追記：課題の可視化については上の追記の通りですが、メール本文の不可視のままでした。今改めて設定を変えましたので、読めるようになっていていると思います。これに伴い、締め切りを、7月17日（火）23:55に変更します。' (7/15 (Sun) 7:00 update: Regarding task visibility, as per the update above, the email body remained invisible. I have now changed the settings, so it should be readable. Along with this, I am changing the deadline to 7/17 (Tue) 23:55). Below the instructions are icons for 'Hausaufgabe (10.07)' and 'Mail 12. Juli'. On the right, a student's response is shown. The student's name is 'Liebe Asako'. The response text is: 'Meine Hobby ist baseball spielen. Baseball spielen ist angenehm. Gehen wir heute in das Baseballstadion? Liebe grüsse'. A comment from '福岡 麻子 - 2018年 07月 18日(水) 15:20' is also visible: 'Lieber Asako, danke für deine Antwort! Ja, gehen wir Baseballspiel sehen! Liebe Grüße Asako'.

■ (4) 授業時タスクの提出

授業中にプリント等の紙媒体で行ったタスクの写真を撮らせ、BEEF にアップしてもらい、出欠確認を兼ねた課題確認に使用しています。「課題」(ファイル提出型) 機能を使います。

Aufgaben 7.7

Aufgabe 1: Bitte ein Foto / Fotos vom heutigen Arbeitsblatt uploaden :-)

Aufgabe 2: Bitte eine Antwort schreiben :-)

 Aufgabe 1

 Aufgabe 2

oe-	評 定 の た め 提 出 済 み	✎	編集	-	2016	年	07	月	13	日	(水 曜 日)	23:47	image.jpeg
oe-	評 定 の た め 提 出 済 み	✎	編集	-	2016	年	07	月	7日	(木 曜 日)	14:05	IMG_20160707_103207.jpg	IMG_20160707_103451.jpg

■ (5) コメントや意見を授業中に共有する

「フォーラム」機能を使い、一つの問いかけに対して一人一言ずつ投稿してもらいます。写真の例は、ドイツ語の助動詞 können の導入の際のものです。英語の can (können に相当) を使った文を一人一つ考えて書き込むこと(周囲の人と相談はしてもよい)、その際、できるだけ他の人と「かぶらない」文を考えて書くこと、という指示をしました。名前は反映されるものの、自分(だけ)が目立つこともなく、また、できるだけ面白いことを書こう、他の人は何を書いたか、といった情意面での刺激としてもうまく機能しました。

CAN



CAN

CAN

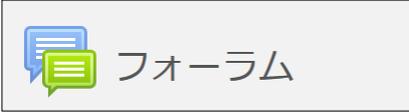
助動詞canを用いた英文を一つ考えて書いてください。

1. できるだけ多様な例が出るように、主語や文の形式などに知恵を絞ってください
2. 「ディスカッショントピックを追加する」をタップ
3. 「題名」および「メッセージ」に考えた英文を入力(両方の欄に同じ文を入力してください)
4. 「フォーラムに投稿する」をタップ

ディスカッション	ディスカッションの開始	返信	最新の投稿
I can enjoy reading.		0	2016年 07月 7日(木) 11:12
We have the right to vote.		0	2016年 07月 7日(木) 11:03
I can swim fast.		0	2016年 07月 7日(木) 11:03
I can run fast.		0	2016年 07月 7日(木) 11:02
Mai can make up my mind.		0	2016年 07月 7日(木) 11:02
I can run.		0	2016年 07月 7日(木) 11:02
Yes, we can.		0	2016年 07月 7日(木) 11:02
I can see you tomorrow.		0	2016年 07月 7日(木) 11:02

「フォーラム」機能を用いた課題の提出

木原 恵美子 (国際コミュニケーションセンター・准教授)

利用コンテンツ	 フォーラム
授業科目	Productive English (文学部 2 年生)、English Literacy (経済学部 1 年生)

■はじめに

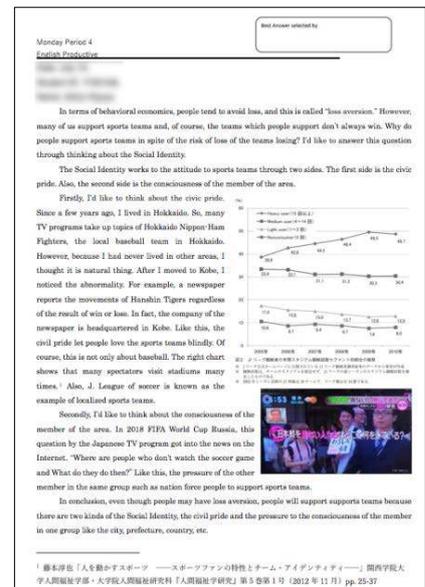
私は 2018 年度 7 月に、台風のため休講になった授業の補講として、神戸 BEEF の「フォーラム」機能を用い、レポートまたはプレゼンテーション動画の提出を課題としました。

■ケース 1 : Productive English (文学部 2 年生)

この授業では、普段から、①宿題として A4 用紙 1 枚 (右図参照) に 4-5 段落のエッセイを書く課題を課し、②その回答を紙に出力して、授業に持参し、③教室でグループごとに着席し、メンバーが予め用意した回答をグループで共有、1 人 1 票の投票権があり、グループ内でのベストエッセイ (2 票以上獲得) を選出する、という一連の活動を授業の冒頭 (30 分) で行なっていました。

授業で用いていた教科書は次のものです。

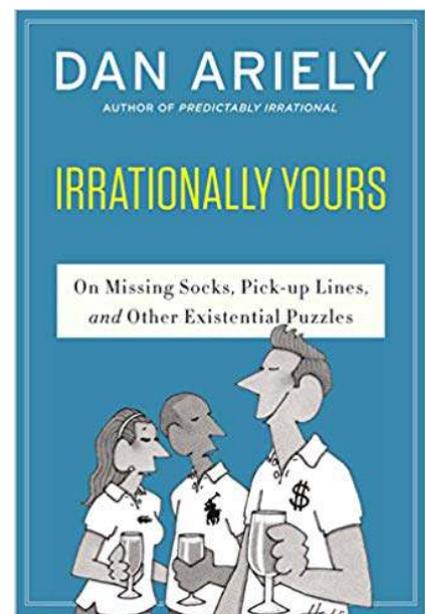
・ *Irrationally Yours: On Missing Socks, Pickup Lines, and Other Existential Puzzles*



■BEEF 課題の流れ

課題は以下のような 3 段階で回収しました。

- ①教科書に載っている質問に対する自分の答えを自宅で作成。
(データ、グラフ、数値を必ず引用し、A4 用紙 1 枚にまとめる。)
- ②作成したエッセイは Word ファイルか PDF ファイル形式で BEEF のフォーラムに投稿。
- ③ベストアンサーを投票。



■BEEF の表示例

この授業での課題においても、課題提出用のフォーラムと、学生同士がお互いの提出課題についてフィードバックのコメントを記入するためのフォーラムとの2つを設定しています。

[第2クォーター][U235] English Literacy A2

Home ▶ [第2クォーター][U235] English Literacy A2

ナビゲーション

Home

- ダッシュボード
- ▶ サイトページ
- ▼ 現在のコース
 - ▼ [第2クォーター][U235] English Literacy A2
 - ▶ 参加者
 - ▶ 一般
 - ▶ 最終課題 ビデオ動画 提出 8月9日 (木) 12時10分期限
 - ▶ 最終課題 ピアフィードバック 提出 8月10日 (金) 23時55分期限
 - ▶ トピック 3
 - ▶ トピック 4
 - ▶ トピック 5
 - ▶ トピック 6
 - ▶ トピック 7
 - ▶ トピック 8
 - ▶ トピック 9
 - ▶ トピック 10
 - ▶ マイコース

アナウンスメント

最終課題 ビデオ動画 提出 8月9日 (木) 12時10分期限

7月30日に行ったプレゼンを他の受講生からのフィードバックに基づいてやり直し、ビデオ撮影し、そのビデオを youtube などにアップして、そのアップ先のリンクをここに投稿すること。

リンク提出期限：8月9日 (木) 12時10分

ビデオ動画のリンク 提出

2018年 08月 10日 23:55 まで利用可

最終課題 ピアフィードバック 提出 8月10日 (金) 23時55分期限

ここには8月9日 (木) 12時10分までに提出されたプレゼンのやり直しビデオ動画の中から自身のペアの動画を見て、その動画に対するフィードバックを8月10日 (金) 23時55分までに投稿すること。

フィードバック 記入

2018年 08月 10日 23:55 まで利用可

管理

▼ コース管理

ビデオ動画のリンク 提出

・ 購読する

返信をネスト表示する ▾ このディスカッションを移動する... ▾ 移動 ピン留め

2018年 08月 5日(日曜日) 22:39 - の投稿

【発表メンバー】

【発表トピック】

【Topic 1】 Should governments spend more money on improving roads and highways, or should governments spend more money on improving public transportation (buses, trains, subways)? Why? Use specific reasons and details.

【動画URL】



月曜2限 プレゼンやり直し

フィードバック 記入

ここに次の3点について日本語500字程度で答えなさい。

件名：学籍番号 氏名

本文：

1. 【他の学生のプレゼンに足りていない点】
2. 【自分のプレゼンに足りていない点】
3. 【どこを、どのように、自分のプレゼンを改善すれば自分のプレゼンはどのように良くなるか】

このフォーラムでは1人1件のディスカッショントピックを開始することができます。

新しいディスカッショントピックを追加する

ディスカッション

ディスカッション開始

返信

最新の投稿



0

2018年 08月 6日(月) 12:46

このフォーラムをダウンロード

フィードバック 記入

・ 購読する

返信をネスト表示する

このディスカッションを移動する ...

移動

ピン留め



2018年 08月 6日(月曜日) 12:46 -

の投稿

ベアの発表は四国や九州に焦点を置き、具体的な時間や経済効果などが挙げられてとても良かった。また、アニメーションやグラフなども凝っていてとても見やすく楽しいスライドだった。ベアの発表は、イントロダクションが少し長いかなと思った。詳しく説明することで私の提案をよりわかりやすくできるが、情報量が多く長かったため、少し疲れたのもう少しまとめて提案の部分を長くすることで、そこを強調するようになりたいと思う。また、四国に新幹線を作ることによる経済効果の根拠が少し足りないかなと思った。四国に仕事に行ったり、観光に行ったりしたい人が多いことを言えばいいかなと思った。

ベアと自分たちのプレゼンを比較して、自分たちのスライドが上手くないということを痛感した。ベアは画面全体にイラストや写真を使い、アニメーションなども上手く使っていたので話がより分かりやすかったし、このプレゼンを頑張ったということが伝わった。自分たちもアニメーションや写真を増やして見る人によりわかりやすく伝えられるようなスライドを作る必要があると思った。また、振り直しではあまり上手く話すことができなかった。もっと発表練習をして、身振り手振り説明できたらよかったなと思う。

パーマリンク | 編集 | 削除 | 返信

■個人的な感想

- ・ 教員からプレッシャーをかけるより、学生同士の「ピアプレッシャー」を利用する方が、学生が課題に真摯に取り組んでいるように見えました。(課題の進捗状況、ITスキル、課題に取り組む姿勢がお互いに丸見えなので、課題を教員に email で提出するよりも、【BEEF > フォーラム > ディスカッショントピックを投稿】で回収の方が公開性、一覧性、透明性が高く、緊張感を持って学生が課題を提出していたように見えました。)
- ・ コツは「教室で経験済の課題を BEEF で回収する」ことだと思います。これまで未経験の課題を初めて BEEF にアップロードするのは、学生にはかなりのプレッシャーがかかるのでご注意ください。文学部 2 年生クラスでは受講者全員がデジタルで課題を出せたのはこの課題が初めてでした。(教室では手書きのレポートが何度も提出され、何度お願いしても手書きレポートが提出され続けました…。)
- ・ プレゼンのやり直しビデオの撮影は、学生は、空き教室、ラーニングコモンズ、テラス席、図書館のミニ部屋、自宅、下宿している部屋などでスマホ、タブレット、ノート PC を駆使して撮影します。
- ・ YouTube に限定公開で動画をアップロードすることも教室で一度デモンストレーションすれば学生は理解します。YouTube に関して質問を学生から受けたことはこれまで一度もありません。(Drop Box や Google Drive のようなクラウドを経由する提出の場合は、学生が教員に間違った URL を知らせることがありますが、最近はそれも減ったように思います。)

振り返りコメントの回収と返答の公開

廣田 大地 (国際コミュニケーションセンター・准教授)

利用コンテンツ	 フィードバック	 ページ
授業科目	フランス語初級 A1・A2・A3・A4、フランス語中級 C1・C2	

■はじめに

私の授業では、毎授業の最後の5分間に、BEEFの「フィードバック」機能を用いて、履修学生ひとりひとりに、その回の授業についての「理解度」と「参加度」とを5段階評価で自己評価してもらっています。また、それとともに、その回の授業内容について自分の言葉でまとめなおしたものや、授業内容についての質問などを「振り返りコメント」として投稿してもらっています。こちらは課題として、成績評価の対象としています。

提出されたコメントの内、秀逸なものは、私からの返答コメントを添えて、神戸 BEEF で公開することになっています。翌週の授業の冒頭でも、それを口頭で補足を加えつつ紹介しています。

授業中に振り返りコメントを記入してもらう時間が取れないときは、授業後に、その日のうち、あるいは翌日までを締切として各学習者にコメントを記入してもらっています。また、授業冒頭に前回のコメントを紹介する時間が取れない場合にも、神戸 BEEF の授業ページにおいて公開しておくことで、学習者が過去のコメントを読むことができるというメリットがあります。

■コンテンツ使用の目的・期待される効果

このような活動に毎回取り組んでもらうことには、次のような効果が期待できると考えています。

- ①学習者がその回の授業内容を振り返ることで、学習内容の記憶への定着を深める。
- ②授業で学習した内容を自分の言葉でまとめることで、そのロジックについて考える。
- ③ほかの学習者のコメントを読むことで、自分では気づかなかった他の観点を学ぶ。
- ④学習内容の誤った理解に基づくコメントや、質問を含むコメントについては、教員が返答コメントを返すことで、正しい理解を得る。
- ⑤高度な学習者のコメントに対して教員が発展的な内容の返答コメントを返すことで、学習内容を超えた更なる自主学習の機会を得る。
- ⑥学習者⇄教師、学習者⇄学習者間の双方向的な交流により、学習意欲を高める。

■使用例（「ページ」の設定と表示結果）

「フィードバック」機能のみを使っても、学習者のコメントの集計と公開を行うことができますが、その際、「難しかった」「頑張ります」などのあまり内容のないコメントや、ほかの学習者のモチベーションを削ぐようなコメントも自動的に公開されてしまうという問題があります。そのため、私の授業では、「ページ」機能を用い、クラス全体で共有するに値するコメントだけを厳選し、そこに教師側からの返答コメントを添えています。ただし、その分、教師側での作業が増えてしまう点が問題ではあります。

「ページ」内では、ただ単に「振り返りコメント」と「教師の返答」のテキストデータをそのまま表示させるのではなく、チャット風のレイアウトにするために、以下のような設定を加えています。【設定を編集する > コンテンツ > ページコンテンツ > ツールバー切り替え > HTML ソースを編集する】で開いた「HTML ソースエディタ」に以下の入力をすれば、同じレイアウトを作ることができます。

```
<p style="line-height: 25px; margin-right: 10%; background: #fff; border: 2px solid #c8c8c8; border-radius: 10px; font-size: 12pt; padding: 10px;">学習者のコメント</p>
<p style="line-height: 25px; margin-left: 10%; margin-bottom: 40px; background: #cef3b6; border: 2px solid #a8bdd9; border-radius: 10px; font-size: 12pt; padding: 10px;">教師の返答</p>
```

Home ▶ [第1クォーター][U486] フランス語初級A 1 ▶ 第3回 (4/24火・3限) ▶ [振り返りコメントへの返答](#)

ナビゲーション ☰

Home

- ダッシュボード
- ▶ サイトページ
- ▼ 現在のコース
 - [第1クォーター]
 - ▼ [U486] フランス語初級A 1
 - ▶ 参加者
 - ▶ 第1回 (4/10火・3限)
 - ▶ 第2回 (4/17火・3限)
 - ▼ 第3回 (4/24火・3限)
 - [振り返りコメントへの返答](#)
 - [今週のフレンチ・ポップス \(Tête - "La bande son de ta vie"\)](#)
 - [小テスト \(練習問題 02A~02Dから 10問\)](#)
 - [第3回の授業内容](#)
 - [今日の授業の振り返り](#)

振り返りコメントへの返答

今までフランス語はスラスラ流れていく感じがしてたけれど、今日の授業でその原理が少し理解できた気がする。リエゾンを学んで、やはり言葉には会話が先行するのかなと思った。

この文法の授業では、文字からフランス語に入っていきますが、実際には、言語はまず音として作られていき、文字は後付けで整備されていったわけです。リエゾン、アンシェヌマン、エリジオンと3つの規則がありますが、これらはすべて、発音しやすいように音が変化したものです。

フランス語の冠詞は英語と同様に加算・不可算、定冠詞・不定冠詞がある。仏語の男女名詞や部分冠詞があるのは英語とは異なる点だった。hがつくとアポストロフを使うのを忘れがちだった。

母音から始まる単語だけでなく、よまないHから始まる単語の前でも、冠詞のle, la はエリジオンして「l」となる点には要注意ですね！

フランス語の不定冠詞と定冠詞のつけ方が女性名詞と男性名詞によって違うことがよくわかりました。女性名詞の多くがeで終わることは覚え

私の BEEF の活用方法

加藤 雅之 (国際コミュニケーションセンター・教授)

利用コンテンツ	 フィードバック
授業科目	Productive English、English Communication、English Literacy

■はじめに

私の授業では、基本的にすべてのクラスで BEEF を使っています。

特に、**予習課題の回収**と、**整理・提示・諸連絡**において重宝しています。

■ (1) スケジュール、成績、授業の流れの提示

<h4>スケジュール</h4> <p>masakato@kobe-u.ac.jp</p> <p>第3クォーター</p> <p>10/4 オリエンテーション 10/11 Chapter 1 10/18 Chapter 2 10/25 Chapter 3 11/1 Chapter 4 11/8 Chapter 5 11/15 Chapter 6 (11/22 予備日 授業はなし) 11/29 中間テスト</p> <p>第4クォーター</p> <p>12/6 振り返り Chapter 7 12/13 Chapter 8 12/20 Chapter 9 12/27 Chapter 10 1/10 Chapter 11 1/17 Chapter 12 1/24 別教材用意(予習なし、小テストあり) (1/31 予備日 授業はなし) 2/7 期末テスト</p>	<h4>成績</h4> <p>平常点(総合評価)で行う</p> <p>予習(2.5点×12=30点) 設問5問+Information Recall and Summary 1問 毎回BEEFで提出すること 内容により減点あり</p> <p>小テスト(2.5点×13=27.5点) 授業での減点対象(遅刻、睡眠、非活動、スマホ...)</p> <p>中間テスト(20)(持ち込みなし)</p> <p>期末末テスト(17.5点)(持ち込みなし) (秀の上限はクラスの10%程度とします。極端な成績の偏りが出た場合は調整をする場合があります。)</p>	<h4>授業の流れ</h4> <ol style="list-style-type: none"> 1 Pre-Reading Preparation: Introduction in English 2 Vocabulary 語彙チェック・拡張(日本語) 3 Reading Analysis 予習チェック・設問解答(日本語) 3 Information Organization in English 4 Information Recall and Summary in English 5 Summary Cloze in English 6 小テスト
---	--	---

これらは、紙媒体と同じ機能で、なくなることなく最後まで見ることができます。ほとんど変更することがありません。

■ (2) 予習

予習では「フィードバック」機能を使っています。

予習

BEEFでの提出期限: 授業のある週

<ul style="list-style-type: none"> Chapter 1 (締切10/9) Chapter 2 (締切10/16) Chapter 3 (締切10/23) Chapter 4 (締切10/30) Chapter 5 (締切11/6) Chapter 6 (締切11/13) Chapter 7 (締切12/4) Chapter 8 (締切12/11) chapter 8 本文 Chapter 9 (締切12/18) Chapter 10 (締切12/25) Chapter 11 (締切1/8) Chapter 12 (締切1/15) 	<p>設問6-1 アメリカの大学</p> <ul style="list-style-type: none"> - 時間通りに終わる。 - 授業後すぐに帰宅する。 - 指定された時間に終了する - 決められた時間通りに終わる - 時間通りに授業が終わり、学生はみんな帰る。 - 時間きちりに終わる。 - 授業は時間通りに終わるもの - 決められた時間に終了する - 定刻に終わる。 - 時間通りに終了する。 - 授業は時間通りに終わる。 - 授業は決められた時間通りに終了する - 時間通りに授業が終わる - 時間通りに終わる。 - 時間通りに終わる。 - 時間通りに終了する - 時間通りに予定通りの時間に終わる - 定刻通りに終了する。 	<p>設問6-2 ブラジルの大学</p> <ul style="list-style-type: none"> - 午後の授業はほとんど人がおらず、30分オーバーしてもなお授業が進行する。 - 帰る生徒はほとんどのおらず、教室で議論し、多くの質問をする - 12時出ていく生徒はほんのわずかで、多くの生徒が12時30分を過ぎても話し合いや質問をしている - 多くの学生は授業後も残り、30分以上過ぎても授業のことを話し合ったり議論したり、質問したりしている - 時間が過ぎても議論したり、質問したりしている - 生徒の多くが残り、議論したり質問したりするもの - 多くの学生がその後も残って議論や質問をする - 話し合いや質問が行われ、定刻を過ぎても終わらない。 - 正午をすぎると少数の生徒は去るが、ほとんどの生徒は議論したり質問したりする。 - 多くの生徒が残って議論したり質問したりする。 - 多くの生徒が授業終了後も議論をしたり、質問をしたりする。 - 授業の終了時間ちょうどに帰る生徒は少なく、ほとんどは30後頃まで残る。 - 午後の授業はほとんど生徒がおらず、30分オーバーしても授業が進行する。 - 授業が終わっても議論や質問を続ける。 - 時間が来ても帰る学生は少なく、多くが残って議論や質問をしていく - 数人は時間通りに帰るが、多くは授業終了時刻後も残り、話をしたり質問したりする - 多くの人が議論や質問をするために終了時間が過ぎても残って議論や質問を続ける - 講義が終わった後も残り講義について話し合ったり質問に答えたりする
--	---	--

とっても便利です。

特に良いのはその一覧性で、直観的、ヴィヴィッドに回答の傾向を把握できます。

以下は、アメリカの大学とブラジルの大学の授業の終了時間に対する態度の違いについて尋ねた設問ですが、それぞれの答えをざっと見て、傾向を把握することができます。また、少数回答に注目することで、どこでつまづいたかを推定することもできます。

さらに、多肢選択で回答させた場合は自動的にグラフ化してくれます。



この機能を使うと、CALL 教室などリアルタイムに行えばクリッカーとしても機能させることができるかもしれません。

なお、「分析」ではなく「回答を表示する」タブからは、データをエクセル形式でダウンロードすることができます。(下図参照)



あ、その前に：

フィードバックは匿名がデフォルトになっていますので、最初に設定で「ユーザー名を記録して回答と共に表示する」に変更しておかないと、だれが何を書いたのか分からなくなってしまって、えらいことになるのでご注意ください。



エクセルの表示具合はこのような感じです。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
1	ユーザー名	メールアドレス	日付	関数の挿入	News Vocabulary (http://t	Information	Support / C	Information	Support / C	Information	Information	Support /
2		89j@2018年	04	世界最大級のソーシャルメデ	Avail	disadvanta	Support	interflow	Support	Learn	Body	Support
3		92j@2018年	04	Kim Jong Un ready to talk with A	vital	participate	Oppose	interact	Support	early child	bonds	Oppose
4		08j@2018年	04	Escaped prisoner arrested in Hir	vital	participate	Oppose	interact	Support	early child	bonds	Oppose
5		83j@2018年	04	4/29 envoy-大使という意味。i	vital	participate	Oppose	interact	Support	elementar	bonds	Oppose
6		88j@2018年	04	Shikoku prison escapee collared	vital	participate	Oppose	interact	Support	early child	bonds	Oppose
7		91j@2018年	04	With too many unknowns, Abe a	vital	participate	Support	considerd	Support	elementar	bonds	Oppose
8		97j@2018年	04	April.27: North Korean leader an	important	participate	Oppose	interact	Support	elementar	bonds	Oppose
9		07j@2018年	04	30/4/18South Korea will remove	vital	participate	Oppose	interact	Support	elementar	bonds	Oppose
10		10j@2018年	04	Kim pledges to 'shut down nucle	vital	participate	Oppose	interact	Support	elementar	bonds	Oppose
11		16j@2018年	04	Shikoku prison escapee collared	necessary	participate	Oppose	interact	Support	elementar	bonds	Oppose
12		82j@2018年	04	April 26Tatsuya Yamaguchi, a m	vital	participate	Oppose	interact	Support	elementar	bonds	Oppose
13		96j@2018年	04	2018 4/30Shikoku prison escape	important	participate	Support	contact	Oppose	elementar	bond	Support
14		01j@2018年	04	April 27 Crime syndicate mem	vital	participate	Oppose	interact	Support	early child	bonds	Oppose
15		15j@2018年	04	2016/4/25Pop star Tatsuya Yam	vital	participate	Oppose	interact	Support	elementar	bonds	Oppose
16		87j@2018年	04	Shikoku psion escapee collared	vital	participate	Oppose	study	Oppose	elementar	bonds	Oppose
17		90j@2018年	04	Teen dethrones Uchimura at All-	helpful	participate	Oppose	interact	Support	early child	bonds	Oppose

この種のデータの場合、いつもやっかいなのは、学生の順番を揃えることです。というのは、普通にソー

トをすると、上から 3 桁目のコントロール数字が邪魔になって、名簿の順番にならないからです。

すなわち：

18⁵3320

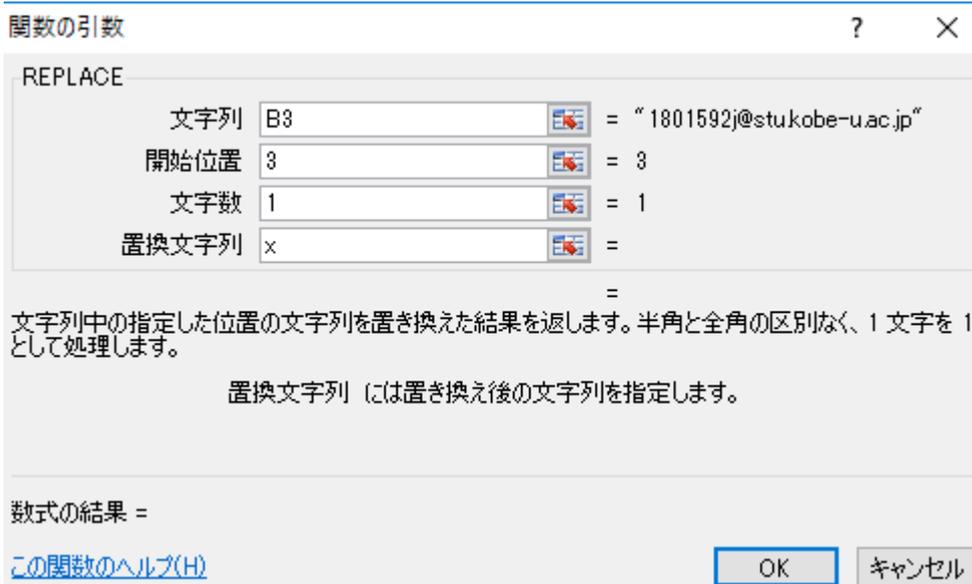
という学籍番号は 18 年度入学の 3320 という学生を一義的にさしており、三桁目の 5 はこれらをチェックするためランダムに振られた数字です。これをそのままソートして、上り順にするとこうなってしまいます。

18⁰3321

18³3319

18⁵3320

正しく扱うためには（たとえば）エクセルの関数 REPLACE などを用いて、このチェック数字を無効にすることが必要です。



これにより、ソートをかけると、名簿通りの昇順にソートすることができます。

18^x3320

18^x3319

18^x3321

■ (3) ポイントの提示

成績は学生にとっても一番気になるところです。このやり方が良いかどうかは分かりませんが、ポイントを BEEF 内ですべて公開することがあります。メリットは言うまでもなく、あとになって、成績に対するクレームを避けることができる点です。あらかじめ、学生に 4 桁の数字を申請してもらい、自分のポイントを確認してもらいます。

ポイント																	
	1	2	3	4	5	6	予習	1	2	3	4	5	6	小テスト	中間	小計	
	0	0	2.5	0	0	0	0	2.5	0	2	0	0	0	0	2	10	14.5
3	0	2.5	0	2.5	0	2.5	7.5	2.5	2.5	0.5	2.5	1.5	2.5	12	12	31.5	
210	0	0	0	0	2.5	0	2.5	0	0	0.5	2.5	0	1.5	4.5	6	13	
313	0	0	0	0	0	0	0	2.5	0	0	0	0	0	2.5	0	2.5	
419	0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	13	2.5	2.5	2.5	2	0	2.5	12	15	39.5	
513	0	0	2.5	0	2.5	2.5	7.5	2.5	2.5	2.5	0	1.5	2	11	12	30.5	
708	2.5	2.5	0	0	2.5	0	7.5	2.5	2.5	0	2.5	2.5	2.5	12.5	18	38	
1090	2.5	2.5	2.5	2.5	0	2.5	13	2.5	2.5	2	2.5	0	2	11.5	14	38	
1125	2.5	2.5	2.5	0	0	2.5	10	2.5	0	2	0	2	2	8.5	14	32.5	
1136	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	0	13	2	2.5	0	2.5	2.5	0.5	10	13	35.5	
1153	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	0	13	2.5	2.5	1	2.5	1.5	0	10	13	35.5	
1217	2.5	2.5	0	2.5	0	2.5	10	2.5	2.5	1	2.5	1.5	2.5	12.5	14	36.5	
1246	2.5	2.5	0	2.5	2.5	2.5	13	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	2	12.5	14	39	
1932	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	15	2.5	2.5	2	0	2	0	9	15	39	
1973	0	0	0	0	0	0	0	2.5	2	0	1.5	2	2.5	10.5	14	24.5	
3025	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	0	13	2.5	1.5	2	2.5	0.5	2	11	4	27.5	
3465	2.5	2.5	1.5	0	2.5	2.5	12	2.5	2.5	0	0	1.5	1.5	8	10	29.5	
3648	0	0	2.5	2.5	0	0	5	2.5	2	0.5	0	2	2.5	9.5	12	26.5	
3722	0	2.5	2.5	2.5	2.5	0	10	2.5	0	1.5	0	2.5	0	6.5	18	34.5	
4039	0	2.5	0	2.5	2.5	2.5	10	0	2.5	0	0	0	1.5	4	14	28	
4539	2.5	2.5	0	2.5	1.5	0	9	2.5	2.5	0.5	2.5	0.5	2	10.5	12	31.5	
4542	0	2.5	2	2.5	2.5	2.5	12	2.5	2.5	1	2	2	0	10	15	37	

この授業では、予習、小テスト、中間テスト、期末テストの成績を順次更新して出してみました。学生の反応はいまいちよくわかりませんが、とくにやめてほしいという意見はありませんでした。

■ (4) 学生へのメッセージ

学生へのメッセージ機能については、下記の点で使い勝手が悪いと感じています。

- ①BEEF にアクセスしないと読めない。
- ②BEEF にアクセスしなくても、メールが発送されますが、大学公式アドレス宛に届くため、転送などの設定をしていない学生には届かない可能性があります。
- ③メールが届いたとしても、直接返事ができないので、結局、BEEF に再アクセスして返事を書かねばならず、繁雑です。

■ (5) 結論

BEEF の本体である Moodle については、国際コミュニケーションセンターのメディア研究部門として、つとに実験サーバーを置いたり、勉強会を開いたりしてきたので、このようにデフォルトですべての講義がカバーされるようになったことには感慨深いものがあります。しかし、使い勝手の面では、とくに小テストの作成や、レポートへのコメント機能など、まだまだ使いにくい点があり、対面でやった方が効率的な面も少なくありません。当たり前のことですが、教員のやり方や性格、授業での必要性に応じて、柔軟に自分の使い方を見つけていくというのが良いのではないかと思います。自分のできることを、自分のできる場所で。

神戸 BEEF を活用した教室外での授業支援

保田 幸子 (国際コミュニケーションセンター・准教授)

利用コンテンツ	 フォーラム	 ファイル
授業科目	English Communication、English Literacy、Productive English、 アカデミック・コミュニケーション (英語)	

■BEEF 活用の目的

「教室外 (大学外)」の学びを促進するために、私はすべての担当授業において、下記の4つの機能を活用しています。

- ① 掲示板を利用した情報共有
- ② 授業で使用する予定の資料 (予習用) と使用した資料 (復習用) の提示
- ③ 課題提出
- ④ 課題の返却と個別フィードバック

■BEEF 活用例①：掲示板を利用した情報共有

重要な伝達事項については、授業の中で口頭でアナウンスするように努めていますが、学生の集中度の低下やその日の出席状況により、全員に確実に伝わっていないことがあります。こうした問題を解決するため、BEEF の掲示板 (アナウンス) 機能を利用し、重要な情報を履修生全員に向けてアナウンスするようにしています (下図参照)。



各コーストップページの
「最新アナウンスメント」→
「新しいトピックを追加する」を選択。

特に、エッセイライティングやオーラルプレゼンテーションの評価基準について（何が求められているのか、どのような観点から評価されるのか）、教員と学生側で共通理解を構築しておくことは非常に重要です。エッセイ提出期限やオーラルプレゼンテーションの前には、評価基準について掲示板で再度アナウンスするようにしています。

アナウンスメント

プレゼンテーション評価基準

◀ プレゼンテーション定型表現 解答
第2クォーターについて：授業内容と休講日のお知らせ ▶

返信をネスト表示する

このディスカッションを移動する ...

移動

ピン留め

プレゼンテーション評価基準

2018年 05月 22日(火曜日) 16:12 - 保田 幸子 の投稿

Productive English (月4) を履修しているみなさんへ

5/14 (月) の授業で説明しましたが、皆さんのオーラルプレゼンテーションは、次の3つの観点から、それぞれ5点で評価されます (合計15点)。

- ・ Delivery : 5-4-3-2-1
- ・ Audience Awareness : 5-4-3-2-1
- ・ Power Point Slides : 5-4-3-2-1

詳細については、添付したプリントの3ページ目の評価基準表を確認してください。

すでに、5/14の授業で配布したのですが、成績に関わる重要な内容になりますので、改めてご連絡しました。

みなさんのプレゼンの聞き手は、「その場所についてほとんど知らない人 (those who are *unfamiliar* with your hometown or your favorite place)」になります。その人がその場所に行ってみたくするようなプレゼンをしてほしいと思います。

何か不明な点があれば遠慮なくメールをください。

アナウンスメントの画面例

■BEEF 活用例②：授業で使用する予定の資料（予習用）と使用した資料（復習用）の提示

事前の予習により学習効果が上がることが期待されるリーディングや専門科目の授業においては、BEEF の資料提示（ファイル）機能を利用し、各週で扱うリーディング教材や資料を事前にアップロードするようにしています。BEEF 上に資料をアップロードすることで、学生は場所を問わずスマートフォンやタブレットを利用して授業の予習を行うことができます。また、教員側には、大量の資料の印刷をする時間とコストを削減できるというメリットもあります。

授業で使ったリーディング教材や資料のアップロードは、復習用としても有効です。授業中に正確にノートが取れなかったり、重要な情報を聞き逃したりすることがあっても、講義のスライドを BEEF にアップロードしておくことで、授業後に確認することが可能となります。また、欠席した学生は、その日の授業の教材の受け取りを翌週まで待たずとも、その日のうちにアクセスすることが可能となります。

The screenshot displays the BEEF interface for organizing lecture materials. It is divided into three weekly sections:

- Week 2:** Theoretical Framework for Qualitative Research (1). Files include 'Lin (1998)' and 'Week 2 Lecture Slides'.
- Week 3:** Theoretical Framework for Qualitative Research (2). Files include 'Eisenhart & DeHaan (2005)', 'Howe (1992)', and 'Week 3 Lecture Slides'.
- Week 4:** The Qualitative Research Process (1). Files include 'Atkinson_2005', 'Bradbury (2010)', and 'Week 4 Lecture Slides'.

Each file entry has a plus icon on the left and a '編集' (Edit) button on the right. A '+ 活動またはリソースを追加する' (Add activity or resource) button is located at the bottom right of each weekly section.

資料提示の画面：リーディング教材および講義スライドの提示

■BEEF 活用例③：課題提出

まとまった時間が必要となる授業外での課題、特に、エッセイやリサーチペーパーを課している授業では、BEEF の「課題」機能を活用し、学生が自身の課題を BEEF 上にアップロードできるようにしています。これにより、学生は時間と場所を問わず、課題が完成した時点ですぐに自身の課題を提出することができます。また、BEEF の課題提出機能では、「遮断時間」（提出期限を超えた課題は自動的に受け付けられなくなる）を設定できるため（下図参照）、遅延提出を防ぐことができるというメリットもあります。

期限内に BEEF にアップロードされた課題は、右のような画面で教員側に提示されます。

氏名	メールアドレス	ステータス	評点	編集	ファイル提出
[Redacted]	@stu.kobe-u.ac.jp	評点のために提出済み	85.00 / 100.00	編集	Productive English.docx
[Redacted]	@stu.kobe-u.ac.jp	評点のために提出済み	80.00 / 100.00	編集	English essay.docx

■BEEF 活用例④：課題の返却と個別フィードバック

提出された課題に対する個別フィードバックと添削、その課題の返却については、授業内で十分な時間を確保することが難しいため、BEEF の「フィードバックコメント」(課題について、学生一人ひとりにフィードバックやコメントを出すことができる)、「フィードバックファイル」(コメントや添削月の課題の現物を返却することができる)機能を利用しています(下図参照)。これは、特にライティング授業で、プロセスアプローチ(書き直しの機会を与え、何度も修正しながら、よりよい書き手の育成を目指す)を採用する際に有効です。

▼利用

開始日時 28 9月 2018 00 00 Yes

終了日時 5 10月 2018 00 00 Yes

遮断日時 28 9月 2018 15 30 Yes

常に説明を表示する

▼提出タイプ

提出タイプ オンラインテキスト ファイル提出

語数制限 Yes

最大アップロードファイル数 1

最大提出サイズ サイトアップロード上限(1GB)

▼フィードバックタイプ

フィードバックタイプ フィードバックコメント オフライン評価ワークシート フィードバックファイル

コメントインライン No

「フィードバックコメント」を選択 →
学生一人ひとりに課題に対するコメントを出すことができる。

「フィードバックファイル」を選択 →
学生一人ひとりにコメント・添削付きの課題を返却することができる。

教員からのフィードバックとコメントにより、学生は、自分が書いた英文が読み手にどのように解釈されたかを知ることができ、書き手としての強みや弱みを確認することができる。また、フィードバックとコメントに基づき何度も修正を行うことで、語彙力や文法力を含む総合的なライティング能力の向上が期待できます。学生のライティング課題に対して教員が実際に出したコメントと返却された課題は、次のような形で BEEF 上に提示されます。

氏名	メールアドレス	ステータス	評価	編集	ファイル提出	提出日時	最終更新日時	最終評価
	@stu.kobe-u.ac.jp	評価済	85.00 / 100.00	編集	Productive English.docx	2018年07月20日(金) 15:17	フィードバックコメント	85.00 / 100.00
	@stu.kobe-u.ac.jp	評価済	80.00 / 100.00	編集	English essay.docx	2018年07月20日(金) 15:50	フィードバックファイル	80.00 / 100.00

英語授業における BEEF 内での活動例

大和知史 (国際コミュニケーションセンター・教授)

利用コンテンツ	 フォーラム	 小テスト
授業科目	English Communication、English Literacy、Productive English、アカデミック・コミュニケーション (英語)	

■満点取るまで単語テスト

小テストとして、単語テストを授業内と BEEF 内との二段構えにしました。授業内に実施するものを7点、BEEF を3点と設定しました。テスト形式は2つとも共通で、「英語の辞書定義文を提示し、対応する単語を書く・タイプする」というものです。テストの範囲は授業で一度テストしたもので、復習として BEEF の満点取るまで単語テストを受験することになります。



▼ タイミング

小テスト公開日時 11 月 2018 13 30 Yes

小テスト終了日時 17 月 2018 23 55 Yes

公開期間を1週間に

制限時間 6 分 Yes

制限時間を経過した場合 受験は制限時間内に送信される必要がありますがそうでない場合はカウントされません

送信猶予期間 0 分 Yes

▼ 評点

評点カテゴリ カテゴリなし

合格点 0.00

受験可能回数 無制限

評点方法 最高評点

受験可能回数を無制限に、評点方法は満点のみなので最高評点に設定。

BEEF では、「小テスト」内の「タイミング」の設定を、授業後から次回の授業前日の 23 時 55 分とし、「受験可能回数」は「0」として回数無制限とし、「評点方法」は「最高評点」としました(上図参照)。「制限時間」は5～6分程度と設定しました。こうすることで、一週間の間、受け放題の小テストとなり、満点を目指す形式としました。期限内に満点を取ることができれば3点、取れなければ0点とし、授業内と授業外との点数を累積すると説明しました。

また、「受験に関する特別制限」の設定で、「最初と2回目の受験の強制待ち時間」と「2回目以降の受験の強制待ち時間」のチェックを入れ、時間を設定しました(例えば順に3分と2分 右図参照)。



▼ 受験に関する特別制限

パスワードを要求する マスク解除

ネットワークアドレスを要求する*

最初と2回目の受験の強制待ち時間* 3 分 Yes

2回目以降の受験の強制待ち時間* 2 分 Yes

ブラウザセキュリティ* なし

表示を減らす...

これらを設定しておく、受験後は時間の経過がなければ次の受験ができなくなる。

こうすることで、連続受験を防ぎ、少しでも学生の中での振り返りの時間を確保するようにしました。受験件数については、例年はクォーターの最初は多く、徐々に減っていきます。慣れによって満点を取りやすくなった、受験者数が減った、あるいは両方、などが考えられます。最近では、中間段階や後半にまためのテストを入れることで、受験件数を維持することもできています。

■フォーラムでのライティング（とコメント付与）

Productive English では、「フォーラム」に、ライティング課題（の一部）を投稿することと、自身のライティング以外のものに対して、コメントを書き込むことを課題としました。

The screenshot shows two forum posts. The first post is titled '中間要約課題' (Intermediate Summary Task) and is from 2018. The user has posted a TED talk link: '選んだTED「How movies teach manhood」Colin Stokes' with the URL https://www.ted.com/talks/colin_stokes_how_movies_teach_manhood. Below the link is a 'Summary' section containing a paragraph of text about the speaker's views on gender equality and the Bechdel test. The summary is 184 words long. The second post is a reply titled 'Re: 中間要約課題' and is also from 2018. The user provides feedback on the summary, stating it is good but suggests removing unnecessary information like the speaker's background and the Bechdel test details to make it clearer. The reply is 57 words long. Both posts have a 'パーマリンク' (Permalink) and other interaction options like '編集' (Edit), '削除' (Delete), and '返信' (Reply).

教員以外の学生に、自身がタイプしたものを読み、コメントを付けてもらうという経験は新鮮だったようで、好意的に受け止められています（この活動は、BEEF だけではなく、紙媒体でも行っており、同様に好意的に受け止められているようです）。

English Literacy では、「課題」に、300 words 程度のライティングを Word にて提出する課題を出しています。中間時点で 1 回教員に提出し、その後は、授業内でペアやグループで peer review を行います。中間時点では、提出された Word ファイルをダウンロードし、コメント機能によりコメントを付す、あるいは PDF にしてコメントを書き込んだ上で、「フィードバックコメント」や「フィードバックファイル」として返却しました。

■プレゼン課題選択の意思表示とコメント・ファイル提出

Productive English では、任意の TED Talk や TED Ed を選び、その要約をしたり、どの動画をクラスメイトに理由とともに薦めする、というプレゼン課題を実施しています。学生が動画を選択する際、他の学生との重複を避けるため、「フォーラム」に自身が選択した動画の情報を書き込むように指示しました(右図を参照)。

選択の際には、「早い者勝ちを原則とするため、他の学生の書き込みの状況を確認するように」と指示することで、全員が異なる動画を選択、紹介することになり、発表時に内容が重複することがないようにしました。また、クラスの人数分の動画が「フォーラム」内に一覧となって紹介されることから、クラスメイトの選ぶ意外な動画を一度見てみようかと思わせるような効果もありました。

また、別の課題として、その一覧から自分のもの以外の動画を選んだ上で、動画の要約やお薦めをライティングで行うことも実施しました。最初に選んだ学生が、他の学生によってどのように紹介され、どのようにお薦めされているのかを知ることができ、文章を読む・プレゼンテーションを聞く上でのきっかけとなることを狙いました。プレゼンの際には PowerPoint ファイルを、ライティングの際には Word ファイルを、「課題」にて期限内に提出するよう指示しました。

■プレゼン動画の共有

大学院の「アカデミック・コミュニケーション(英語)」において、学生によるプレゼンテーションをビデオ録画し、それを YouTube で限定公開の設定をし、「ページ」において埋め込みました。

学生は各自でビデオを視聴し、リフレクションシートにコメントを書いて次回の授業に持参するように指示しました。また、教員は、そのビデオを見て、評価シートに評価・コメントを記し、返却しました。

自分自身のビデオの様子を振り返ることで、プレゼンテーションの際の、顔や身体の向きや視線、ジェスチャーなどを確認することができました。教員からの評価だけでなく、学生同士の相互評価のコメントなどとビデオを突き合わせて確認することができ、よいフィードバックとなったようです。ただし、この取り組みは、比較的少人数の大学院の授業であったこと、BEEF へのアクセスと YouTube での限定公開であることから可能であったことかもしれません。

The screenshot shows a forum post on the LMS BEEF platform. The main title of the post is "[第1クォーター][U346] Productive English 1 (水2農)". The post content includes a title "最終プレゼンで取り上げるTED Talk/TED ed flip/PechaKucha Presentationはコレ!" and a detailed message from a user named 大和 知史. The message explains the assignment and provides instructions for submitting presentations. Below the main post, there are several replies (Re: 最終プレゼンで取り上げるTED Talk/TED ed flip/PechaKucha Presentationはコレ!) from other users, each featuring a video thumbnail and a link to the presentation content. The forum interface includes navigation links like "ホーム", "最終プレゼンで取り上げるTED Talk/TED ed flip/PechaKucha Presen...", and "フォーラムを検索する".

台風などによる休講分の BEEF 補講

石川 慎一郎 (国際コミュニケーションセンター・教授)

利用コンテンツ	 ファイル
授業科目	English Communication (2018 年度 2Q)

■使用の背景

台風による休講分の補講として、神戸 BEEF を使用しました。休講となった授業では、これまでの学修のまとめを行い、ビデオ（日本企業における英語の活用実態を描いたドキュメンタリ）を見ながら、学生とディスカッションし、教員が English as a Lingua Franca (ELF) や国際英語の理論の展開について英語で解説することを予定していました。

■BEEF の活用方法

同じ内容の授業を月曜・水曜の 2 回実施していたため、休講にならなかったクラスの同一内容の授業を 90 分ビデオ撮りして、動画の編集を行った後、BEEF にアップロードし、休講クラスの補講教材として使用しました。

■BEEF で授業効率を高める工夫

通常授業では、始めにビデオを見せて、学生に意見を出させた後、講師が解説を行うスタイルを取っています。同様の教育成果を BEEF で再現するため、2 種のビデオ視聴・レポート作成を組み合わせることで、以下のタスクデザインを行いました。

タスク 1	ドキュメンタリビデオの視聴
タスク 2	上記に基づく感想レポートの送信
タスク 3	ドキュメンタリビデオを解説した講師の授業ビデオの視聴
タスク 4	上記をふまえた上で、当初の感想とどう変化があったか、どのような新たな学び・発見があったかをまとめた感想レポート（2）の送信

※教育においては、初めに自分でとことん考えた後で、教員の解説を聞き、自身の理解の深化を実感する体験（ある種の納得体験、ユーリカ体験、アハ体験等）がきわめて重要であり、BEEF であっても同様の体験ができるように課題を設定することが重要です。

■フィードバック

感想文のフィードバックやクラスディスカッションについては、次回の通常授業の一部時間を割いて対応しました。

■使用例 (課題プリントと神戸 BEEF の表示結果例)

課題プリント

地震に伴う休講分の補講について

BEEF 上で以下の 2 つの課題を出しています。まず第 1 ビデオを見た上で 7/25(23:50)までに第 1 作文を提出。その後第 2 ビデオを見た上で 7/29 (23:50) までに第 2 作文を提出すること。本日中にビデオが見られるかどうか確認の上、問題あれば xxxxxxx@xxxxx.xxx まで連絡ください。期限ぎりぎりの問い合わせには対応できません。

神戸 BEEF の表示結果例

+ 第6回目 (第1課題) (オンライン補講)

編集

- 1) 下記のビデオを視聴 (10分程度)
 - 2) 7/25 (水) 23:50までにビデオの感想文を「スピーチ原稿送信サイト」より送信 (英文, 分量はいつもと同じ)
- ※6回目の補講は2つのタスクからなります。このあともう一つのタスクがありますのでご注意ください。



次の条件に合致しない限り利用できません:

- 2018年 07月 23日 07:00 以後
- 2018年 07月 25日 23:55 以前

+ 活動またはリソースを追加する

+ 第6回目 (第2課題) (オンライン補講)

編集

- 1) 下記の講義ビデオを視聴 (80分程度) ※第1タスク終了後アップロードされます
 - 2) 7/29 (日) 23:50までに講義ビデオを見た感想文を「スピーチ原稿送信サイト」より送信 (英文, 分量はいつもと同じ)
- ※6回目の補講は2つのタスクからなります。この前にもう一つのタスクがありますのでご注意ください。



次の条件に合致しない限り利用できません:

- 2018年 07月 26日 01:00 以後
- 2018年 07月 29日 23:55 以前

■ BEEF 補講に対する学生の声

- ・休講になったが、実際の授業と同じ内容を受けられてよかった。
- ・90分家で学習しないといけない仕掛けになっていた。
- ・最初に自分だけでビデオを見て感想をまとめた後、先生の解説ビデオを見たので、最初から解説を聞いていたよりも深く理解できたように思う。

■ BEEF 補講を実施しての講師の感想

- ・補講の有無にかかわらず、常時、自分の授業をビデオ撮りして記録しておくことが重要であると感じました。
- ・BEEF において、小課題ごとに提出期限を細かく設定できる機能は有用と感じました。
- ・BEEF 上で、学生に意見交換を行わせることも機能的には可能ですが、その部分是对面授業でやるべきではないかと考えます。
- ・要は BEEF ですべてを完結させようとせず、BEEF に適合した活動だけを BEEF に任せるといった使い方が望ましいのではないかと思います。
- ・今回の授業は、授業内で著作物（ドキュメンタリ）を視聴する活動を含むものでした。教室内での授業においてそれらを活用することには著作権保護の特例（著作権法第 35 条第 1 項）が適用されるわけですが、BEEF で同一の行為を行う際の法的根拠は明確ではありません。特に著作権の関連概念の 1 つである「公衆送信権」に抵触する可能性がありますので、この点については全学的な判断と方針の統一が必要であると感じました。